

サラリーマンの農業²

秋田へルミ米を売る

米どころ



そばの花が満開 (横手市)

きました。おいしさよりヘルシ―さを追求する米があってもいいのです」

こう話すのは

「食にまつわる55の不都合な真実」の著者で、総務省地域力創造アドバイザーの金丸弘美氏だ。

そんな秋田の農産物とい

えば、特A米として知られ

る「あきたこまち」が代表

格。だが、北海道の「ゆめ

ぴりか」、青森の「青天の

霹靂」といった新顔も含

め、43種類もある特A米と

の競争にさらされている。

そもそも日本人1人当た

りの米消費量はこの50年で

半分の54%にまで減ってお

り、市場自体が縮小してい

るのだ。

「糖質制限ダイエットに代

表されるように、糖質の多

いお米は女性に敬遠されま

す。ところが、これまでの

日本の農業は、食のトレン

ドに合わせる努力を怠って

きた。

「食にまつわる55の不都合な真実」の著者で、総務省地域力創造アドバイザーの金丸弘美氏だ。

人の新規就農につながりま

す。秋田というと、フルー

ツのイメージはあまりあり

ませんが、実は横手市など

ではぶどう栽培が盛んで

す。それをジュースやジャ

ムに加工するだけでなく、

キノコや山菜など、秋田で

なければ手に入らない食材

を織り交ぜてレストランを

つくる。たとえば石川県の

レタス栽培農家は「六星」

という会社をつくり、直売

と商品開発を始めたところ

大福が大当たり。金沢駅前

では色とりどりの野菜弁当

を売って、これも女性客に

大人気です。パン屋だって

併設のカフェで儲けを出し

ています。コメ農家も発想

の転換が必要です」(金丸氏)

農作業の体験ができる農家民宿

6次産業は秋田の農家に
とって生き残る道。県農林
水産部農業経済課担当者も
こう力を込める。

「直売、加工以外に『農家レ
ストラン』を積極的に推進
しています。更に農業体験
と観光を組み合わせた『農
家民宿』や『観光農園』も
支援している。農業だけで

は広がりがなくても、こう
いったグリーンツーリズム
で観光客も呼び込めます」

実は農家民宿を提唱して

五城目町では、若い経営

者がわらわら古民家を改装

して宿泊施設をつくり、海

外からも熱い注目を集めて

いるという。いわば、農村

全体を巨大スタジオに見立

て、映画のような風景を売

っているのだ。(あすは「東大農学部で教

前年に「農業科」が3クラ
スから2クラスに減らさ
れ、現在は農業科そのもの
がない。秋田の子は全国ト
ップレベルの学力があり、
子を持つ親としてもクーラ
ーの効いたオフィスで働か

「食にまつわる55の不都合な真実」の著者で、総務省地域力創造アドバイザーの金丸弘美氏だ。

「食にまつわる55の不都合な真実」の著者で、総務省地域力創造アドバイザーの金丸弘美氏だ。

「食にまつわる55の不都合な真実」の著者で、総務省地域力創造アドバイザーの金丸弘美氏だ。

「食にまつわる55の不都合な真実」の著者で、総務省地域力創造アドバイザーの金丸弘美氏だ。

「食にまつわる55の不都合な真実」の著者で、総務省地域力創造アドバイザーの金丸弘美氏だ。

甲子園に沸いた米どころ
秋田も、農業就業人口はど
んどん減っている。

農業人口4万3000人に激減

1955年に県内の農業
人口は35万1816人(就
業人口の57%)。これが平
成になって10万人を割り込

み、2015年はピーク時
の8分の1以下となる4万
3328人(同9%)にま
で減った。しかも半数以上
は65歳以上のお年寄りだ。

金足農業高も1984年
にPL学園と死闘を演じた

「食にまつわる55の不都合な真実」の著者で、総務省地域力創造アドバイザーの金丸弘美氏だ。

「食にまつわる55の不都合な真実」の著者で、総務省地域力創造アドバイザーの金丸弘美氏だ。

「食にまつわる55の不都合な真実」の著者で、総務省地域力創造アドバイザーの金丸弘美氏だ。